

第4回懇談会の意見概要

【参考資料1】

	意見概要	反映資料
稲庭委員	「アート・フォー・オール」のような考え方は近現代の文化を検討していく中で何度も出てきているテーマであり、そういった考え方が盛り込まれて市民ミュージアムは立ち上げられたと思うので、その文脈を取り込んで、<u>博物館資料と美術館作品を合わせた常設展示を考えていくのがよいのではないか。「デザイン」は1つの展示テーマになると思う。</u> - 常設展示では、「川崎」だけではなく、「暮らし」や「創造性」という視点も入れていかなければ、多くの人が来なくなるミュージアムにはならないのではないか。現代作家を入れて歴史の展示をつくるなど、現代社会と接続する視点を入れた展示になれば、問題の本質がクリアになったり人々の関心を得られやすいので、<u>アートの良さを使って展示をつくっていくことが博物館資料と美術館作品を併せて展示することの良さだと思う。</u> 「まちなかミュージアム」については、「<u>拠点施設</u>」がどのようなコンセプトを持ち、<u>どのようなことができる場所なのか</u>がしっかり決まってきたから、より具体化していくのだと思う。	資料1に反映 資料3に反映
垣内委員	- 市民ミュージアムは<u>コレクションの修復が重要なミッション</u>。収集方針として「複製芸術」から広げるのは賛成。 - 生田緑地ビジョン改定の委員会にも参加していたが、ミュージアムができることに対して環境系の方もポジティブに捉えていると思っているが、<u>環境負荷や景観への影響に関する懸念については、きちんと配慮していくということをもう少し明示した方がよいのではないか。</u> - 生田緑地の既存施設もアクセス性が良くないので、<u>新たなミュージアムが立地することで、アクセス性や回遊性が良くなることを期待する。</u>	資料1に反映 資料3に反映
佐藤委員	「融合」が特徴になるのではと思うが、詳細を考えていく上で博物館、美術館で分かれてきてしまっているのではないか。<u>収集方針の考え方も含め、博物館、美術館を一体で考えた上でまとめていく必要があるのでは。</u> <u>展示機能は単体であるのではなく、ラーニング機能や地域共創機能との関係性も重要になるのではないか。</u> - 生田緑地に整備する場合、「<u>周辺施設はこのような役割で、こういった機能が分散していて、そういったものとの関係でここにつくる</u>」という視点が必要になってくるかと思う。	資料1に反映 資料3に反映
田中委員	- ミュージアムが「こうですよ」と知らしめるような立場で歴史や芸術のあり方を伝えるというよりは、<u>むしろ訪れた人が省察を通して自分の生い立ちやその地域、歴史を相対化できるという体験を提供できることがとても重要なのではないか。</u> 「生田緑地東地区の魅力の最大化に向けた最適な配置を検討」とあるが、メカニズムとしては、<u>生田緑地全体としての魅力の最大化に向けた、各施設の相対的な関係の構築というのが、これよりも上位にあるべき</u> - 生田緑地は、東京にあれだけ近いところにあんなにも生態系が残っているという川崎市でも有数の場所なので、<u>エコロジーに対する責任のある計画という立場は、しっかり考えていく必要があるのではないか</u>と考えている。	資料2に反映 資料3に反映
八木橋委員	<u>常設展示で押さえるべき3つの点は賛成</u>。ただ、新たなミュージアムの特徴として「融合」を掲げているので、<u>常設展示において博物館、美術館の「融合」を示していく必要があるのではないか。</u> 「福祉、医療、観光などとの共創」という考え方については非常に良い部分であり、回想法による民俗資料の高齢者施設での活用をはじめ、児童施設なども含めてぜひ検討を進めてほしい。 <u>施設整備にあたっては、ばら苑を含めた空間全体として持続可能なかたちでシステムとしてうまく機能していけば、ばら苑も含めた開設候補地のあたりが生田緑地の中でも面としてうまく動いていけるのではないか</u>と想像する。	資料1に反映 資料2に反映 資料3に反映
藤野委員 (公募市民)	<u>教育普及の目的、ゴールの設定が必要と考える</u>。また、<u>効果測定を行って次につなげていけるとよいだろう。</u> - SNSで市民ミュージアムのこれまでの活動に対する高評価が発信・拡散されたケースも見受けられたので、<u>開館前からの活動においてはオンラインでの交流の場も市民参画の機会として捉え、「つながり創出」の一環として展開できると良いではないか。</u> - 生田緑地の周辺施設との連携を強化して、<u>生田緑地が文化エリアとして際立って欲しい。</u>	資料2に反映 資料3に反映
金子委員 (会議後個別ヒアリング)	「水と共同体」というテーマはわかりづらい面もあるので、<u>博物館分野のテーマは広く「生活」や「暮らし」などと設定するのがよいのでは。</u> 「<u>新たなミュージアムが加わった新しい生田緑地をどう整備していくか</u>」ということと、「<u>新たなミュージアムの建築物としての整理</u>」を並行して検討すべき。 「アクセス性・回遊性」と「周辺施設との連携」は併せて検討し、「<u>エリア全体としてどうしていくべきか</u>」ということも今後示してほしい。	資料1に反映 資料3に反映
熊谷委員 (公募市民・会議後個別ヒアリング)	<u>収蔵庫展示という新しいかたちでも実物の展示機会を拡充していくことは重要である</u>。展示しきれない収蔵品もあると思うため、収蔵庫展示によってより多くの収蔵品を見られるようになることは素晴らしい。 - 学芸員やことうー、ボランティアの方などがミュージアムに継続的に関わり続けられるような、<u>人がつながり続けられる仕組みがあるとよい。</u> - ミュージアムも交流や活動の拠点として市民の居場所になることが重視される傾向にあるため、<u>多目的に使用できるスペースが設けられるとよい。</u>	資料1に反映 資料2に反映 資料3に反映